

SR-3を耳につけるとき／耳からはずすとき

- ①耳を、耳当てパッドの穴に入れること（わかりきったことですが……）
- ②パッドを前後にずらせることにより、きわめて微妙ながら、音質が変わります。ご自分の好みどおりの音になるよう、パッドを当てる位置をおぼえて下さい。
- ③2本のツル（＝頭部金具）は、これを開けばパッドの圧着が強くなり、逆に閉じれば弱くなります。開／閉による強／弱では使い心地がわるいときは、扇型金具のあたりで、2本のツルを内又は外に軽く曲げてやれば、圧着は強く又は弱くなります。
- ④2本のツノ（＝上下金具）は広範囲に上下できますから、ご自分に合うよう調節してください。
- ⑤SR-3に外部から力を加えると、パチリという雑音を出すことがありますから、着脱のとき本体を抑えつけないでください。

SR-3の保存について

- ①使わないときでも、いちいちプラグをアンプ又はアダプターのコンセントから引抜く必要はありません。
- ②使わないときは、布かビニールのようなものでカバーして、ホコリを避けてください。
- ③アンプのような発熱体の上には置かないこと、湿気を避けることなど、ご注意ください。

SR-3の音量および音質について

- ①SR-3の最大許容入力300V（アダプターSRD-5の場合には5W）ですが、実際にはどれだけの入力加えられているか、ふつうの装置ではわかりません。一つの目安として、入力が過大になると、パチパチという放電雑音を出しますから、この雑音が出ない範囲でお使いください。
- ②パチパチいう音は、きわめて薄い振動膜が固定極板に接触するために起るもので、長くつづけられれば振動膜の破損を招きますから、ご注意ください。（万一、破損した場合は当社で修理いたします。）
- ③SR-3は周波数特性が平坦ですから、トーン・コン

トロールによる低音／高音の強調は不要です。

- ④高音域にノイズ（テープのヒスやレコードのスクラッチ）が目立ったり、低音域にノイズ（ゴロゴロいたりゴーッという連続音）がきこえるときは、そのプログラム・ソース、カートリッジ、アーム、ターン・テーブル、テープ・レコーダー、アンプなどに問題がないか、おしらべください。

SR-3のコードについて

- ①コードは線間の容量を少なくする必要から、現在の太さ／長さに設計されたもので、もし長さを伸ばしたいときは、4mの延長コードSRE-14（別売）をお使いください。
- ②SRE-14は、コンセント・ボックスSRE-B2（別売）を増設することにより、SR-3を2組つなぐことができます。

SR-3をつなぐアンプについて

- ①ふつうのスピーカーを鳴らすメインアンプ（出力5W又はそれ以上）の場合には、アダプターSRD-5を、アンプのスピーカー出力端子につなぎ、SRD-5に、SR-3をつなぎます。
- ②ふつうのアンプについているヘッドフォン端子にはつなげません。
- ③チューナー、リアンプ、テープ・レコーダー、トランジスター・ラジオなど、直接にはつなげません。（①を参照）。
- ④SR-3は、そのインピーダンスが高い（130K Ω ／10,000Hz）ことを利用して、真空管のプレート回路から、直接ドライブすることができます。SR-3の専用OTLアンプとしてSRA-3Sを発売しております。

SR-3の専用OTLアンプについて

自作なさる場合のご参考に、当社で好結果を得た回路図を二つ記載しておきます。リアンプについては適当な回路をおえらびください。